

公の施設の指定管理者における業務状況評価

平成29年11月24日

施設名	埋蔵文化財センター	所管課	教育委員会 文化財課
-----	-----------	-----	------------

1 施設の概要

指定管理者名	(公財)高知県文化財団	指定期間	平成25年4月1日 ~ 平成30年3月31日
施設所在地	南国市篠原1437-1		
事業内容	<p>○施設管理(埋蔵文化財保護の中核施設として最適な施設管理を行う)</p> <p>○出土文化財等資料管理(出土遺物を適切に保管・管理し県内外からの依頼に応じて貸出等を行う)</p> <p>○広報普及(発掘調査成果及び出土文化財を広く県民に公開することにより埋蔵文化財に対する保護の推進と普及啓発を図る)</p>		
施設内容	<p>面積:本館(1,038.68㎡) 北館(518.40㎡) 南館(1,045.92㎡) 収蔵庫(1,527.52㎡)</p> <p>開館時間:午前9時~午後5時まで</p> <p>休館日:土・日・祝祭日, 12月29日~1月3日</p> <p>(巡回展の期間中、公開講座等開催日は開館)</p> <p>利用料金:無料</p>		
職員体制	常勤職員: 5名		

2 収支の状況

単位:千円

		平成27年度(決算)	平成28年度(決算)	平成29年度(予算)
収入	県支出金	45,595	44,742	51,778
	補助金等収入	1,260	1,260	0
	その他	1,059	839	539
	収入計 (a)	47,914	46,840	52,317
支出	事業費	5,588	5,105	6,973
	管理運営費	15,191	17,591	15,494
	人件費	27,135	24,144	29,850
	その他	0	0	0
	支出計 (b)	47,914	46,840	52,317
収支差額 (a)-(b)		0	0	0

3 利用状況

	平成27年度(実績)	平成28年度(実績)	平成29年度(目標)
①年間利用者数(単位:人)	4,040	4,651	3,400
②利用者意見等の反映	○ 利用者アンケート等の実施状況(時期・方法・回答数・調査結果等) 展示公開(遺跡から出土した土器類の展示や展示解説板による説明)や親子考古学教室等での来館者に対してアンケートを実施し、意見や感想の収集とニーズの把握に努めた。		
	○ 利用者意見等を踏まえた対策 講座内容の充実や資料作りを行う際にアンケート結果を参考とした。一例として、出前考古学教室では実物の土器について、実見や実際に触れる等の機会をできる限り多くすることに努めた。		
	○ その他 〔以下は、アンケート回答の一部〕 ・旧石器時代や縄文時代などの昔の古墳や遺跡などを楽しく知る事ができてとてもおもしろく学習できた。(「企画展」) ・バーガ森遺跡の土器片はとても美しかった。年月により土が削れ小石が浮き上がっている感じが心地よかった。(「移動展」) ・日頃自分が思っている事、している事が独りよがりになってはしないか、こういった講座に参加して方向性を確認できるのでありがたい。(「記念シンポジウム」) ・知人に聞くまで知らなかった。子供も親も楽しめるイベントだと思う(「センターまつり」) ・口調から、埋蔵文化財を見つけたときの喜びが伝わり臨場感がありワクワクした(「遺跡説明会」)		
③その他特記事項			

4 平成 28 年度業務評価

項 目	状 況 説 明
①適正な管理運営の確保	○協定書、事業計画書の内容に沿って概ね適正な管理が行われた。 ○事故発生はなかったが、万一の時のために消防訓練等を実施し、利用者の安全確保に努めた。
②利用者サービスの維持向上	○年間行事カレンダーの作成やホームページで情報発信するとともに、講座への参加経験者に事業案内を送付する等で利用者数の確保に努めた。 ○公開講座等については、「見てもらう展示」に心がけていた。 ○キッズコーナーの設置により若年層への関心を高めることに努めた。 ○職員の研修会を開催し、情報共有や知識の研鑽に努め、利用者に対して十分な説明ができるように努めた。
③利用実績	○館外で積極的に活動し、出前考古学教室では、県内97校、3,375人(昨年度:85校、3,052人)を対象に「地域の遺跡」に関する授業と体験学習を行った。また、いの町では、町内の遺跡から出土した遺物の展示やワークショップ等の移動展を開催し好評であった。 ○地道な広報活動をはじめとする日常的・積極的な普及推進と、親子考古学教室埋文センターへの親しみと業務に対する理解を深めてもらう“まいぶんセンターまつり”等を開催することで入館者が増加した。
④収支の状況	○経費の節減に努めつつ適正な支出が行われている。
総合評価	A ○地道な活動や新たな視点での事業の実施により入館者の確保に努めている。 ○出前考古学教室は好評である。 ○埋蔵文化財保護の中核施設づくりを目指す一方、マスコットキャラクターを活用した事業展開により親しみやすさを、各種企画展や公開講座等の実施により知名度アップを図るなど、考古学に対する関心の高まりに努めている。 ○利用者サービスの向上や施設管理については、概ね適正に行われている。

- A: 仕様書の内容や目標を上回る成果があり、優れた管理運営が行われたもの
 B: おおむね仕様書の内容どおりの成果があり、適正な管理が行われたもの
 C: 仕様書の内容や目標を下回る項目があり、さらなる工夫・努力が必要なもの
 D: 管理運営が適切に行われたとは認められず、大いに改善を要するもの

【評価の目安】